

# 字のない葉書 (1)

二年 組 番 名前

① この随筆の前半部分(22・113・114)を読んで、父の「手紙の言葉遣い」と「ふだんの言葉遣い」が分かる表現を文章中から探して書き出してみよう。また、その違いを通して、「私」が父についてどのようなことを発見したのかを簡潔にまとめてみよう。

父の「手紙の言葉遣い」	父の「ふだんの言葉遣い」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙では表書きに「殿」を使い、文面は縦折</li> <li>り目正しい時候の挨拶から始まって、筆者を</li> <li>「貴女」と呼ぶなどしている。</li> <li>要約してあるので、3つのサイドラインを引い</li> <li>たところを本文から抜き出してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふだんの父は、「おい、邦子！」と呼び捨て</li> <li>にし、「はか野郎！」と罵声を浴びせるなどし</li> <li>ていた。</li> </ul>
<p>← 随筆の中の「私」が、手紙を通して父について発見したこと</p> <p>例・暴君のようなふだんの言葉遣いだったのに、手紙の言葉遣いは折り目正しく、父親の几帳面な一面を発見している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よそよそしく他人行儀な言葉遣いから、ふだんはできない理想的な父親の姿を演じようとしている父の姿を発見している。</li> <li>・娘を丁寧に扱い心配もしているところから、優しい父親の姿を発見している。</li> </ul>	

② この随筆の後半部分(23・121・122・123)を読んで、末の妹が「疎開に出発する前」と「帰宅するとき」に父がとった行動や態度を挙げてみよう。また、そこから父のどんな思いが伝わってくるかを考え、簡潔にまとめてみよう。

<p>「疎開に出発する前」に父がとった行動や態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父はおびたらしい葉書にきちょうめんな筆で</li> <li>自分宛の宛名を書いた。</li> <li>・「元気な日はマルを書いて、毎日一枚ずつポ</li> <li>ストに入れなさい」</li> </ul>	<p>「帰宅するとき」に父がとった行動や態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいのに手をつけると叱る父も、この日は</li> <li>何も言わなかった。</li> <li>・茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び</li> <li>出した。防火用水桶の前で、瘦せた妹の肩を抱</li> <li>き、声を上げて泣いた。</li> </ul>
<p>← そこから伝わってくる父の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何とか疎開中の娘の状況を知りたい。娘と家</li> <li>族の心を結ぶ唯一の手段がこの手紙である</li> <li>という父の強い思い。</li> <li>・娘を案じ、一日たりとも忘れまいとする父の</li> <li>愛情。娘の寂しさを紛らわすものを与えよう。</li> </ul>	<p>← そこから伝わってくる父の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せめて彼女を喜ばせることをして元気づけた</li> <li>いという思い。</li> <li>・心の中で心配を募らせるも無言で耐えていた</li> <li>父だが、本人が現れると今までの感情がせきを</li> <li>切ってあふれ出た。すまない。会えて嬉しい。</li> </ul>

① 「あれから三十一年」(一五・三)が過ぎて、大人になった「私」は、父のことをどのような思いで振り返っているのだろうか。文章中の表現を手がかりにして考え、簡潔にまとめてみよう。

**Point** 少女時代の私と、大人になった私では、父に対する思いにどんな違いがあるのだろうか

・私が父から手紙をもらった当時は、父の意外な一面に驚いたり、うれしかったりと**感情面**でとらえているが、大人になった今では、父親の心情や性格まで**冷静に分析**できている。

・娘をいとおしく思う本心を直接的な言葉や態度で示せない父だが、内心はとも子供思いの優しい父親であることを、**私はわかっており、亡き父の思い出を大切にしようとしている。**

② この随筆の中の「父」か「私」のいずれかを選び、どんな人物で、自分はその人物に対してどう考えるかを簡潔にまとめてみよう。

ア 「父」    イ 「私」    (選んだ人物の記号に○を付ける。)

--	--

- 1 典子と徹夫の会話の場面(40・31～42・10)から、智に対する徹夫の「監督としての思い」と「父親としての思い」を捉えよう。その際、判断の手がかりにした表現を文章中から抜き出して書いておこう。

監督としての思い	手がかりにした表現	父親としての思い	手がかりにした表現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力から判断すれば、智を試合に出すのは困難であるという</li> <li>・監督としての率直な思いである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンスはないだろう。</li> <li>・出せない、やはり。</li> <li>・実力の世界だからな。</li> <li>・試合に出ることだけが野球じゃないんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族全員が智の試合出場を望んでいることから、父親である自分も同じ願いである。実力が足りないことへの無念への思いもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の試合だからな</li> <li>・ベンチに入ってるんだから、可能性はあるよ。</li> <li>・あいつもうちよつとまけりやいいんだけど。</li> </ul>

- 2 1の場面から、典子が徹夫、智、典子自身についてどのように思っているかを捉えよう。

徹夫について	智について	典子自身について
<p>典子は頑張ってもいいと思っていないと思っている。徹夫はその考えを認めていないが、頑張ったらしいことがあると示せてもいない。球前を言っていることに対して不快感を抱いている。</p>	<p>姉として智が試合に出ることを望んでいる。しかし出してもらえないことも分かっている。その現実には立ちまを感じつつ、頑張ってもいいことがないと思っては欲しくない気持ちがある。</p>	<p>典子は物事に対する意欲を失っている。頑張ってもいいと思っていないという言葉には智への思いとともに、今の自分の無気力な状態を望ましいものとはないと自覚している。</p>

- 3 「一瞬言葉に詰まった後、徹夫の両肩から、すうつと重みが消えていった。頬が内側から押されるように緩んだ。」(46・39)とある。ここに描かれた徹夫の様子に着目して、このときの徹夫の思いを想像し、簡潔にまとめてみよう。

・うまい、下手ではなく、好きだから野球を続けるといふ考え方はすばらしい。自分が忘れていた考え方を、智の言葉で教われた。

・そこまで野球が好きで、中学校まで続けていくという覚悟があるのか。智の気持ちが聞けてよかった。中学校の部活を頑張ってほしい。応援をしていくぞ。

- 4 「家族みんなで、ホームインしよう。」(50・35)とあるが、ここまでの作品の内容を踏まえて、このときの徹夫の思いを想像し、簡潔にまとめてみよう。

・みんなが戻ってくる場所である家は大切だ。これからも家族を大切にしよう。

・これからも家族の一人一人にいろいろなことが起こるかもしれない。そのときは心のつながりを大切にして、一緒に乗り越えていこう。

## 卒業ホームラン (2)

二年 組 番 名前

① 徹夫、佳枝、典子、智から一人を選び、どんな人物で、自分はその人物に対してどう考えるかを簡潔にまとめてみよう。(「どんな人物か」を書くときには、そのように判断するうえで手がかりにした表現をメモしておこう。)

ア 徹夫    イ 佳枝    ウ 典子    エ 智    (選んだ人物の記号に○を付ける。)

どんな人物か	手がかりにした表現
その人物に対してどう考えるか	

★ 人物像を紹介する際には、どの表現から推測したのか根拠となる表現を明らかにしながら説明できるようにしましょう。また、できるだけ複数の表現に着目しましょう。

② 「卒業ホームラン」と「字のない葉書」とを読み比べ、作品に描かれている家族や父親像について、感じたことや考えたことをまとめてみよう。

・ 両作品に共通しているのは**家族がテーマ**

・ **父親に焦点**が当てられている。

・ それぞれの作品を**家族や父親像という観点**から、感想を書く。

・ 読み比べをする際は、特に**共通点や相違点**を意識する。

【相違点】・ 時代背景・家族が置かれている状況。父と子の距離感。父親の性格。

【共通点】 子を思う父親の愛情、お互いを思いやりいたわり合う家族のきずな。家族間の温かい交流。父親としての心の葛藤や多面性。

以上の視点を踏まえながら記述してみてください。